

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700678		
法人名	三喜 株式会社		
事業所名	グループホーム ぶどうの家		
所在地	岡山県倉敷市船穂町船穂1707-1		
自己評価作成日	令和4年11月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372700678-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特に大切にしていることは、ご家族や関係者宛に毎月ご本人の様子をお知らせするお手紙を出しています。お手紙を通じてご本人の様子や思いを知って頂き、ご家族との思いを共有したいと考えています。また、毎月地域住民の方々にお便りをポストインしています。事業所の活動や、日々の様子を地域住民の方々を知って頂き、利用者が地域の一人にして頂くことを目指しています。コロナ禍の為、事業所の行事は行っていませんが、地域の行事には参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同じ建物の中に、グループホームと小規模多機能ホームが同居し、職員も兼務の形で入居者5名と小規模の通いの利用者達と同じ共有空間で一緒に過ごしている。「ぶどうの家」は代表者の思いもあり、これまで住んでいた家と同じような間取り、空間、雰囲気でも暮らせるように設計されており、部屋はすべて畳であり玄関の上がりかまちの段差も特徴のひとつ。立ち上がる、座る動作が生活スタイルになっている。しかし、近年膝や腰の悪い人が増え、日本古来の生活様式では不便な点もあり椅子を使う人が増えたと聞いた。家事を手伝ったり、好きなコーヒーを自分で淹れて飲む等、出来ることをしてもらいながら、その人らしく穏やかに暮らしている。職員も温かい目で最大限に一人ひとりを尊重しながら見守っている。地域にしっかり根付き、地域と共に歩んできたホームは船穂の福祉の拠点となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所を立ち上げた思いや目的に基づき、理念を作っている。 ・職員採用時に理念について話しをし、理解してもらう。 ・日々の申し送りや利用者との会話などを通して確認する。 	ぶどうの家の理念は開設当初からぶれることなく一貫しており、玄関にも掲示して日頃から職員の目に触れるようにして意識付けしている。困っている人に手を差し延べる活動は職員の行動やあらゆる場面での地域との協働にも現れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする。 ・花壇の草取り、水やりは職員が行っている。 ・コロナの影響で行事は行っていないが、地域の行事には参加している。 	長引くコロナの影響もあり以前に比べ少ないが、地域の商工まつりに参加したり、保育園児と一緒に芋ほり、船穂神社の秋祭りに車椅子で参加した人もいる等、地域とのつながりや保育園児との交流は、継続出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、小学生にも分かり易いお便りの作成 ・地元中学生のボランティアを受け入れている。(夏ボラ・チャレンジワーク) ・中学校にて出張認知症講座の開催(コロナの為、行えていない) ・認知症サポーター養成講座の開催(コロナの為、行えていない) 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・行事への参加・協力 ・広報誌配布の協力 ・地域の学校行事等の情報交換 ・外部評価 ・情報共有、実情把握 	このコロナ下では、書面開催のホームが多い中、三喜(株)が運営する複数の他事業所と合同で定期的に参集して運営推進会議を開催しており、市の介護保険課、地域包括、民生委員等の参加がある。活動報告、情報交換等をしながらかし合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内のケアに関する実情や悩みを行政担当者に相談。 ・協会が主催する研修会の情報提供を行う 	運営推進会議に市の担当者の参加があるので、ホームの現状はよく理解してもらっており、情報交換や相談をしながら協力関係を築いている。コロナ禍が続いているので感染対策を含め日頃から連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・日中は玄関に鍵をかけない。 ・身体拘束をしないため、布団に鈴をつけたり、センサーを使用している。やむをえず、身体拘束をする場合は、ご家族に同意を得て必要最低限で行うようにしている ・身体拘束に対してのOJTを行う。 	身体拘束が必要だったり、禁止の対象となるような事例はないが、職員の研修として徘徊訓練(模擬訓練)をする事もある。また、身体拘束・高齢者虐待等対策委員会でもよく話し合い、勉強会もしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所にて勉強会を行う。資料を読んでもらう ・研修に参加し、他職員に研修報告をしている ・家族と話し、予防や早期発見に努めている 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTの実施 ・必要に応じて制度を紹介できるようにしている 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者が、重要事項説明書を使い、説明を行う。 ・契約時、要望を聞きながら、本人・家族と共に介護計画をたてる。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・要望や不安を聞くようにしている。 ・サマリーや、面会時になどに家族の意見を聞く 	毎月本人の様子をお知らせする写真掲載の手紙を各担当者が家族や関係者に出しており、相手に伝わるように工夫した記載内容からも職員が一人ひとりの利用者を大切にしている思いが伝わってくる。家族からの意見や提案も積極的に聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員ミーティング ・リーダー会議 ・引継ぎ帳の活用 ・昼の申し送り・職員間で出た意見をミーティングとして、記録に残している。 	職員は定期的な会議に加え、日頃からよく話し合っており、今日のお昼のミーティングの場面でも申し送りや意見交換をしていた。現在ベトナムの技能実習生が3名勤務しており、人材育成にも力を入れている。調理専従・夜勤専従がいる体制になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間、日数の調整 ・有給休暇の使用 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内外での研修の参加の確保 ・外部の講師を招いて、勉強会を行う ・外部研修のお知らせ 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者連絡会に所属している ・見学・研修を受け入れる 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用するにあたって「何をしたいか」「何を求めているか」「これからどのように暮らしていきたいか」を聞く ・本人に合わせたサービスをすすめる ・新規入所時には、病院や以前利用していた事業所などから情報収集する 		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人とキーパーソンとなる家族等に話を聞く。 ・家族の思い・不安・要望を聞き、本人の思いと家族の思いを合わせて考えながら、計画を立てる 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな支援が必要か、本人と家族と共に考え、ライフサポートプラン、介護計画を作成する。 		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事作り、掃除などの家事を一緒に行う ・地域の行事と一緒に参加する 		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族ができること、事業所ができることを互いに確認しながら、一緒に計画を考える ・毎月お便りやサマリーを通じて、情報交換、意思確認を行っている 		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・外出支援(買い物・散髪等) ・自宅へ帰る。(希望があれば計画する。) ・かかりつけ医への受診や訪問診療や往診の同席。 	<p>コロナ下でも今は家族の面会制限は設けておらず、感染対策に十分留意しながら、家族の面会もよくある。家族とお墓参りに出かける人もいて、それぞれ外出、外食等の個別支援をしながら馴染みの関係が途切れないように大切にしている。</p>	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の見守り ・関係を把握し、座る場所、落ち着く場所をセッティングする ・洗濯物をたたんだり、掃除等同じ役割を持ってもらう 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院された場合も面会に行き、カンファレンスに参加する等関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ゆっくりと話をする時間を作る ・家族への連絡、相談、協力依頼 ・介護計画、サマリー、ライフサポートプラン、24時間シートの活用	日頃からコミュニケーションをしっかりと取りながら、何気ない会話の中からもその人の真の思いを引き出し、意向や希望を把握するようにしている。ライフサポートプランに「食べたい物があれば聞き出し、家族に連絡、持って来てもらう」という記録もあり、その人の思いを尊重していることが窺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・会話、聞き取り(家族・本人・知友人) ・24時間シート、サマリー、介護計画の活用。 ・担当者を決め、利用者と深く関わる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・会話、聞き取り(本人・家族) ・表情、バイタルサイン、動作等の観察、チェック ・食事量や排泄、体重等のチェック ・受診時の同行、訪問診療の同席。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・初めの介護計画は契約時に本人と家族から話を聞きなし、内容を説明する。 ・更新時に職員間で話し合い、作成する。	私の暮らしまとめシート、ライフサポートプラン、介護計画を見ても、アセスメントや本人・家族の意向をしっかりと踏まえて、ケアプランを作成している事が分かる。本人・家族とのカンファレンスや職員間で話し合っ、モニタリングを重ねながら現状に即したプラン作りをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個々の情報は記録に記入し、職員の気づきや思いは随時のミーティングで相談。情報や思いを共有し、実践や見直しを行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・答えられる方であれば本人の希望を聞いて、家族や友人等に相談、支援してもらいながら実行していく。(故郷巡り、お墓参り、旅行等)言葉にならない人には家族に聞いたりし実行する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・民生委員・駐在さん・近くの畑を貸してくれる方など運営推進委員になってもらっている ・幼稚園、小・中学校と交流。訪問 ・地元のお店の活用 ・パン屋さん、ヤクルトさんに来てもらう		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・これまでのかかりつけ医への受診を基本としている。必要に応じてかかりつけ医の提案、提変更をする。 ・受診に同行したり、同行できない場合は主治医宛のお手紙をご家族に渡している。訪問診療時に主治医との関係を築くようにしている	訪問診療、かかりつけ医への定期受診、訪問看護、希望者には訪問歯科、看護師有資格の職員等、日頃から医療と介護の連携はよく出来ており、本人・家族も安心出来る。他科受診は原則家族が受診同行しているが、難しい場合は職員が同行する事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・バイタルサインチェックを行い、異常の早期発見ができるように相談している ・利用者の状態等の報告 ・訪問看護ステーションと契約、事業所内の看護師と携 ・医療機関とこまめに連絡をとる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・面会時に情報交換や相談に努めている ・カンファレンスに参加する ・入院時には、家族・病院関係者と連携をとり情報交換する		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・終末期のケアについて勉強会を行っている ・看取りに関する指針を定めている ・終末期に関するアンケートを実施	この1年では、90代の利用者2名の看取りを行った。これまでも多くの人の最期に立ち会ってきた職員であるが、今回もひとりの人は食事が摂れなくなり老衰で穏やかな最期を迎えた。看取りに関するアンケートを実施して事前に家族の意向を聞くようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・3年に1回、救急講習を受けている ・事故時の対応マニュアルの作成 ・捜索マップ作成・訓練 ・徘徊訓練 ・連絡網の作成		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練を実施している・避難場所経路の確認 ・避難用グッズのリスト作成。備蓄品を常備している ・近所の方には、火災等緊急時には避難の協力をお願いし、緊急連絡網にも記載している	日中・夜間を想定した避難訓練を隣接するサ高住や同一建物内にある小規模と合同で年2回実施している。利用者も一緒に避難経路の確認をしながら安全な場所まで移動している。今は火災訓練が中心であるが、今後は防災も検討したいと思っている。	定められた通り年2回避難訓練をしているが、火災だけでなく、倉敷市のハザードマップを参考にしながら、自然災害(地震・台風・水害等)への対策も計画に盛り込み実施して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・プライベートに配慮したトイレ介助・入浴介助(一人ひとりの入浴)など行っている。	個人情報保護規程に則り、プライバシー保護にも気をつけているが、プライドや羞恥心にも配慮を欠かさないように努め、トイレへの声かけや入浴時の介助時にも言葉遣いには気をつけ、直接的な表現はしないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日頃から希望が自由に言える関係づくりを大切にしている。希望を聞き、ご家族に協力して頂く場合もある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その日の天気や気候、季節感ある情報を提供する ・その日に実行できないようなことは長期的支援を行う		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人の行きつけの美容院、洋服屋に行く ・美容ボランティアの活用 ・日々の衣類の自己選択		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・嗜好の把握(聞き取り・観察など) ・食べたいものの確認。おやつを家族に用意してもらう ・外食に出かける ・体調、病状にあった食事の提供	コロナ禍の為、今回は別室で食事を戴いたが、調理専従の職員が三食とも厨房で作っており、利用者の食事形態に合わせお粥、刻み、ミキサー食等で提供している。出来る人には盛り付けやお盆拭きを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・ヤクルトを個々で購入している。 ・必要時に高カロリー食栄養補助食品の導入 ・飲みたい物を聞き、用意する ・水分把握のためチェック表を記入している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・昼食・夕食後、職員が見守り・介助を行い、口腔ケアを行う ・訪問歯科を利用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄の時間、量を記録し、リズムの把握に努めている(排泄チェック表の記入) ・パット、パンツ等の検討(随時) 	利用者5名全員紙パンツにパットを使用。ストマ装着の人にはパウチの交換をして清潔保持に努め、排泄の自立支援を促すために一人ひとりの状態を見ながら声かけやトイレ誘導をしている。夜間用にポータブルトイレを置いている部屋もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・水分摂取量を記入している ・ヤクルト、牛乳等の活用。 ・トイレで腹圧をかけたり、前傾になったり工夫する。 ・薬の調整(薬、浣腸剤の調整をする) 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーにも気を配る ・1対1の対応でコミュニケーションを楽しむ 	基本は週2～3回入浴をしており、5名とも家庭用の一般浴槽に職員の介助でゆっくり浸かって入浴を楽しんでいるが、入浴拒否のある時には人を変えたり、時間をずらす等して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅と同じようにこたつ、畳、椅子、ベット等それぞれに落ち着ける場所を作っている ・利用者の状況に応じた就寝時の寝具の調整 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの薬情報を整理している。(薬ファイルの作成。) ・便の薬を飲んでいる方は、排便があった場合には看護師に報告し調整を行っている ・薬を準備したスタッフの氏名と服薬を確認したスタッフの氏名を記入し誤薬予防をしている ・居宅療養管理指導を利用している ・薬袋にも日にち名前を記入している 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除、調理、買い物等の支援 ・本人の思いに添った計画 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの為、外出は出来ていないが近くの公民館に散歩に行ったりしている ・外出が難しい為、オカリナ演奏のボランティアの方に毎月来て頂き、楽しんでもらっている 	近くの神社に初詣、春はドライブを兼ねて花見、梅の花見学、秋は紅葉見学等、季節ごとに非日常を楽しんでもらうように外出支援に努めている。日常的にはホーム周辺の散歩や家族との受診や外出、外食も良い気分転換になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お小遣いは預かり金として事業所が管理しているが、買い物時は出来る人は支払いを利用者自身でしていただく ・預かり金は出納帳をつけており、家族に確認してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が出来る方には、必要な物がある時には本人に電話をしてもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・一般家庭と同じような住宅、畳を使用しており、本人に合った椅子を使用している	古民家風な佇まいが特徴で、木の温もりを感じる共有空間は畳、障子、襖があり、玄関には敢えて段差を設け昔ながらの生活様式は生活リハビリになっている。日中は小規模多機能の利用者と一緒にアクティビティやお喋りをしながら和気藹々と楽しく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・襖があったり、家具の配置を工夫することで、他者の視線を気にすることなく過ごせる場所がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご自宅で使用していた家具や布団、ご家族の写真を持って来ている	居室は畳を基本にした和室であるが、ベッドを置いている人が殆ど。使い慣れた家具や身の回り品を持ち込み、ご主人の写真を飾っている人もいる。日中はリビングで過ごしている人が多いが、自室でゆっくり横になって過ごしている人もいて、居心地よく過ごせる環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・利用者の自宅と同じような普通の家であり、段差もある。利用者が自宅と同じように段差を意識し、自宅と同じように過ごしてもらうため、あえて段差をつけている ・手すりを設置・滑り止めの使用		